

二〇一八年度

聖園女学院中学校 入学試験問題

# 国語

(時間 五十分)

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで中を開いてはいけません。
- 二、受験番号・氏名を解答用紙の定められた欄にかならず記入しなさい。
- 三、試験問題の印刷がはつきりしない場合には手をあげなさい。
- 四、解答は解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出しなさい。

二次

一、次の——線部をひらがなに直しなさい。

- (1) 弟に内緒の話をした。 (2) 庭に砂利を敷く。 (3) 山道で油断は禁物だ。
- (4) 再来年は中学生になる。 (5) 川の流れが緩やかだ。

二、次の——線部を漢字に直しなさい。

- (1) 村に熊がしゅつぽつした。 (2) 勉強するいよくがわく。 (3) しきゅうの用事で呼ばれた。
- (4) 学校にしようかきを備える。 (5) 指に包帯をまく。

三、次の文章を読み、後の各問に答えなさい。

「日本の山はごみまみれだ。とくに富士山はひどい。野口健はヒマラヤのことをいろいろ言っているが、日本の山のことをどれだけ理解しているのか」

こんなことを言われたとき、<sup>①</sup>凶星だっただけにグサリときた。世界の名だたる高峰を目指して山に登ってきた私は、日本の山、それも夏山をほとんど知らなかった。

富士山にしても、厳冬期に、<sup>②</sup>耐寒訓練を兼ねて<sup>※1</sup>ビバークのシミュレーション<sup>※2</sup>をしたり、ガリガリに凍ったところを<sup>※3</sup>アイゼンの練習をしたり、トレーニングの場としてはよく行っていたが、雪のない季節の富士山は知らずにいた。

二〇〇〇年五月、初めて夏の富士山に登って驚いた。なぜこんなにごみが落ちているのか？ <sup>③</sup>本当にごみだらけじゃないか。

山頂には自動販売機がずらりと並ぶ。こんな高地にまで自販機を置いている山など、世界中に日本にしかない<sup>④</sup>だろう。その空き缶などもあちこちに転がっている。

そして、どこからともなく漂ってくる悪臭。山小屋からの汚物の臭いだ。トイレから<sup>⑤</sup>尿が流され、トイレトペーパーが山肌に無残な白い川筋を残している。垂れ流し状態なのだ。汚物は地中に吸い込まれていくが、富士山は湧き水豊富な山だ。ぞつとした。

山を降りてきて青木ヶ原樹海に足を踏み入れると、そこには不法投棄されたごみが山積していた。車、家電製品、ドラム缶、タイヤ、バッテリーや電池、注射器などの医療廃棄物、アスベスト……。土からは、それらのごみが長く放置されていることが原因と思われる<sup>※4</sup>異臭がした。

これでは「世界で最も汚い山」と冠されるのも無理はない。

これが、雪と氷に閉ざされていない時期の富士山の本当の姿だったのか。知らない山じゃなかっただけに、ショックが大きかった。

なんとかしなきゃいけないだろう——。私の心に火がついた。

富士山とヒマラヤの清掃活動に取り組んできて、はつきりわかったことがある。

人間一人ひとりの力は微々たるものかもしれないが、結集することで非常に大きな力になるということだ。それぞれが「自分たちの力で、この状況を変えていく」という意識をもち、行動に移すことで、世界は確実に変わっていく。何より顕著な例が富士山だ。

私が富士山の汚さを知り、清掃活動を唱えはじめたのは二〇〇〇年から。最初は清掃への協力を呼びかけても、一〇〇人も集まらなかった。

しかし、富士山の汚さが世の中に広く知られるようになって、「このままではいけない」「どうにかなくては」と考える人が年々増えてきた。昨年度についていえば、一年間で延べ六〇〇〇人以上の人たちが、私たちの行う富士山清掃に参加してくれた。

それだけではない。登山者がポケットから小さな袋を取り出してごみを拾っている姿をよく見かけるようになった。すれ違いざまに、「野口さん、ごみ拾ってますよ」と声をかけてくれる人もいる。

富士山には年間約三〇万人が登るといわれている。仮に一人が一つを拾えば、その瞬間に三〇万個のごみがなくなる。もちろんすべての人がごみを拾うわけではないが、拾う人は何個も拾ってくれる。<sup>⑤</sup>人々の意識がなければ汚れるのは早い、逆に意識があればきれいになるのも早い。「みんなの力」は実に偉大だ。

現に、富士山の五合目からは、本当にごみがなくなった。

バイオトイレをはじめとする環境配慮型トイレの導入で、尿尿の垂れ流し問題もほぼ解決しつつある。

不法投棄の粗大ごみも、確実に減りはじめた。これまで、清掃活動に参加してくれる人の数が増加するのに合わせて、回収できたごみの量も比例して増えていた。だが、<sup>⑥</sup>二〇〇七年度は回収したごみの総重量が初めて前年度より減った。放置された粗大ごみの量がピークを過ぎたことを物語っている。

不法投棄への監視・罰則体制や、恒久的な環境保全対応策など、やらなければならぬことはまだたくさんある。だが、富士山が美しさを取り戻す日が間違いなく来ると、私は信じている。

ごみというのは、不法投棄のような一部のケースを除けば、悪意があつて捨てるのではない。意識がないから、捨ててしまうのだ。

私にしても<sup>⑦</sup>そうだった。私もまた、最初からいまのように環境問題を意識していたわけではない。

世界七大陸の最高峰登頂を目指していたころは、目の前の自分の夢のことで頭がいっぱいで、登山家の残すごみのことを真剣に考えたことなどなかった。

八〇〇〇メートル級の山からの帰り道、疲れてヘロヘロになって、一本四キロある酸素ポンベを三本捨ててきたこともあった。ベースキャンプの氷河に掘ったトイレで用を足し、そのまま排泄物を埋めていたこともあった。氷河はゆっくりと移動し、いずれは融けて地元の村の飲み水になる。最近の調査で、過去の登山家の排泄物が原因で、大腸菌が検出されていることが明らかになったが、そんなことに思いを馳せることまで、<sup>⑧</sup>当時の私にはできなかった。

誰でも、最初から環境への配慮ができるわけではない。だが、意識が芽生えるところから、人は変わる。そこから何ができるか、具体的なアクションとしてどう結びつけていくか。考え、行動することで、何か必ず変わる。一人ひとりが行動に移していくことで、社会を動かす力になっていく。

自分の問題として考える、自分の手で変えていく。——環境問題で私が一番大切にしているのはこの点だ。

私が富士山にこだわるのは、これが富士山だけの問題ではないからだ。富士山で起きているようなさまざまな環境問題は、日本中いたるところで起きている。日本のどこでも共通する問題だ。

自然は、痛烈なメッセージを発している。

山をきれいにすることだけが、私の伝えたいメッセージではない。いま、山で起きている現象、その切実さを多くの人に知ってもらうこと。現場に行つて見てきた人間として、私はそれを世の中に伝えていく義務があると思つている。同時に、ただ伝えるだけでなく、その状況を変えていくためのなんらかの力になりたい。

意識をもてば人は変わる。

自分が暮らす場所を、山を、地球を、自分の手で守り、救う。——みんなの力で変えていこう。

(野口健『富士山を汚すのは誰か——清掃登山と環境問題』より。一部改変)

(注) ※1 ビバーク……野外にテントなどを張って宿泊すること。

※2 シミュレーション……本物や実際のようにすと同じ状態を、かりに作り出すこと。

※3 アイゼン……登山用のくつに取り付けるすべりどめの金具。

※4 籠えた異臭……くさってすっぱくなった変なおい。

※5 アクシヨン……行動。

- (問二) — 線①「凶星だった」とは、どのようなことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 日本の山の実態を筆者が実際に理解していないことを、そのまま指摘されてしまったということ。
- (イ) 日本の山がごみまみれであることを、周囲に指摘されるまでもなく筆者は知っていたということ。
- (ウ) 日本の夏山の実態を知るために、富士山に登ろうと準備していたことを見抜かれたということ。
- (エ) 日本の夏山の姿を実際に知らないで山を登っていたことに、衝撃を受けてしまったということ。
- (問三) — 線②「耐寒」と同じ構成の熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 夏山 (イ) 登頂 (ウ) 増加 (エ) 不法
- (問四) — 線③「本当にごみだらけじゃないか」とありますが、どうしてこの時気がついたのですか。冬の富士山の様子をふくめて説明しなさい。
- (問五) — 線④「ないだろう」の主語を文中から探し、書き抜きなさい。
- (ア) 清掃活動はみんなでやるべきだという意識。
- (イ) 登山者は必ず清掃活動に参加すべきだという意識。
- (ウ) 世界を変えるためにごみを拾おうという意識。
- (エ) 自分たちの登る山をきれいに保とうという意識。
- (問六) — 線⑤「人々の意識」とはどのような意識ですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 人々がごみを拾わなくなったから。 (イ) ごみそのものが少なくなったから。
- (ウ) 清掃活動に参加する人が減ったから。 (エ) 富士山に登る人が減ったから。
- (問七) — 線⑥「そう」が指し示している内容を十五字以内で探し、書き抜きなさい。
- (問八) — 線⑦「当時」とはいつですか。文中から二十字以内で探し、始めと終わりの三字を書き抜きなさい。
- (問九) 環境への配慮ができるようになるには、人はどのような過程をたどりますか。本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 意識する↓行動する↓知る↓考える (イ) 行動する↓知る↓考える↓意識する
- (ウ) 考える↓意識する↓行動する↓知る (エ) 知る↓意識する↓考える↓行動する

四、次の文章を読み、後の各問に答えなさい。

本文までのあらすじ「小学校五年生の「わたし」は弟の「よしひろ」と、夏休みに夏音なつねという所にある祖母の家で過ごしていた。」

海女あまは酸素ボンベは使わない。素すもぐりだ。水中めがねひとつで海底までもぐっていき、息のつづくだけ両手に持てるだけの、ばあちゃんいうところの海のお宝①をとってあがってくる。そのくりかえし。だから、根②こそぎとるということはしない。

「あ、あそこが大げえのがある思うても、深追いせんだわ。また次もぐったときとりゃあええけえな。欲ばるといけん。自分にも海にもな。」

「ききたいんじゃけど、ばあちゃん。ばあちゃんはいっつも留とめさんに送ってもらって、ひとりだけ遠いところまで行くじゃろ。」

「うん。穴場があるけえな。」

「留さんが帰ってしもうたら、海でひとりぼっちじゃろ。さみしくないん？」

「なーんも、さみしいことなんかないよ。今日はどんだけとれるだろか、ええカキは育つとるだろか思うたら、わくわくするわな。」

③「ふうん……。でも、たったひとりなんよ。そばにだれもおらんのよ。」  
わたしにはどうしても納得がいかない。

「外から見たらそうかもしれないけど、夏の間中はにぎやかなもんよ。アジやヒラメの稚魚ちぎよが群れで泳いどって、海の幼稚園みだし、だれが号令をかけるわけでもないのに、魚たちがパツといっせいに方向をかえる瞬間があつてな、そんなときゃあ、ウロコがまるで宝石みたいにキラキラ銀色に光って、そりゃあ夢みたいだわ。なかにはばあちゃんの水中めがねをつつきにくる好奇心旺盛わうせいなやつもおつてな、楽しいよお。」

ばあちゃんは心底楽しそうにころわらつた。海の中の話をするときのばあちゃんは、好きな人の話をしているときのわたしたちそっくり。瞳に星をとばしている。そんなばあちゃんを見ると、わたしには孤独の意味がわからなくなる。ときどき恵理※<sup>1</sup>と一緒にいてもさみしいって感じることはあるけれど、ひとりぼっちよりはずっといい。わたしにいわせると、だれもない広い海でたったひとりなんて、さみしくて死んでしまいうるのに、ばあちゃんは平気だという。

「ばあちゃんは、なんで海女になつたん？」

「初めは生活のため。兄さんが死んでな、家族を支えんといけんかった。結婚してからも、あんたらのとうちゃんを産んだあとも、じいちゃんが死んでからももぐりつづけて、今年でいつの間にか五十八年よ。」

「いまはなんでもぐるん？」

「結局は好きなんだらうな。海が好きで好きで、呼んどること気がする。海ん中のこと考えてるときがいちばん楽しいし、元氣でもぐりつづけられる自分が好きだしな。」

——自分が好き。

ときどき自分がきらいになるわたしは、そういいきるばあちゃんがまぶしくて、目⑤をそらせた。

「いやなことやつらいことが少々あつてもな、海にもぐつたらすーとなんもかんも水に流れてしまふんよ。ストレーヌたらゆうもん、ばあちゃんには縁なしだわ。」

え、ストレスのこと？ 好んで口にするわりには、ばあちゃんの英語はいつもどこかおかしい。だけどあんまり自信満々なものだから、逆にこつちのほうがちがつてるかもと不安になってしまう。

「お、そうだ。去年、ばあちゃん、テレビにでたよ。」

「うっそお。」

あこがれてはいるけれど、実際にテレビにでた人なんて、わたしのまわりにはだれもない。

「ビデオ見るか？」

「見る、見る。」

すっかり興奮したよしひろが、リモコンをとりに行った。

『夏音に、海女たちのシーズンがやってまいりました。』

ナレーションがはじまり、画面いっぱい、いまではすっかり見なれた夏音港の風景がうつしだされた。わたしはごくりとつばをのみこんだ。『大海女、山崎梅子さん八十歳は、今朝も十キロの荷を背に、海へとむかいます。』

「ばあちゃんじゃあ。」

よしひろは目を白黒させながら、となりにすわっている実物と画面のばあちゃんを見比べた。

わたしは画面にくぎづけだ。いよいよウェットスーツに身を固めたばあちゃんが、海にとびこむ。ばあちゃんの話から想像するだけだった海の中の景色が、画面いっぱいに広がった。部屋全体が青くそまる。そっか、ばあちゃんがいつも見る海の中って、こんな景色なんだ。自分もぐってるわけじゃないのに息が苦しくなって、わたしはハフハフといそがしく息をすった。海の中の映像は美しく、まるでばあちゃんと一緒に青い海の底深くもぐっていくような錯覚に、わたしの胸はおどった。

水中に身をしずめたとたん、ばあちゃんの曲がっていた腰がすつとのびた。まるで魔法だ。足ヒレをゆっくりと動かしながら、海の底へとむかっていく姿は人魚のように優雅で、陸の上のばあちゃんからはまるで想像がつかなかった。海の中のほうが、ばあちゃんはずつとのびやかで、ずっと自由に見えた。

『今日の獲物はアワビです。海の底の岩場にできたアワビは、身の危険を感じるとすぐにはりついてとれなくなるので、気づかれないよう後ろからそっと近づきます。』ばあちゃんの胸の鼓動が画面をおして聞こえてくるようだ。

次の瞬間、ねらいすました一点にすばやく道具がうちおろされ、大きなアワビはばあちゃんの手の中にあつた。

「すっごーい。」

思わず声にでた。

「うん。あれは大物だったな。」

ばあちゃんの鼻の穴がふくらんだ。

『手に持てるだけのアワビをとると、山崎さんはいったん海面にあがります。決して無理はしません。こうして二時間の漁のあいだ、五十回も素もぐりをくりかえすのです。』

初めて夏音にきた日、ばあちゃんがたべさせてくれたアワビは、こうしてとつたもんだつたんだ。あのときは緊張していて味がよくわからなかったけれど、もつとよく味わってたべればよかった。ビョー。ばあちゃん※2の磯笛が海面にひびいた。数羽のカモメがぎやかに鳴きかわしながら、おけのまわりをとびかっていた。

息を整えたばあちゃんがふたたび海にもぐる。テレビの前でわたしの息も止まる。となりのよしひろも大きく息をすいこむのがわかった。ワカメの林をぬってまっすぐに岩場に泳ぎつくと、ばあちゃんは岩と岩とのすきまをのぞきこんだ。『ありました。去年目をつけていたアワビです。今年はこんなに大きく育っています。』ナレーター※2の語りをおして、ばあちゃんの心のわくわくがびんびん伝わってくる。そのとき突然わたしは、「なーんも、さみしいことなんかないよ。」といった、ばあちゃんの言葉の意味を、深く理解していた。——そっか！人は心がなにかでいっぱいだと、さみしさなんて感じないんだ。ばあちゃんの心はアワビやカキでいっぱい、さみしいなんて感じるひまないんだ。

⑨ すごいことを発見した気がして、ほっぺたが熱くなった。

『ゼニカネじゃない。好きですけえ。死ぬまで海のお宝をとりつづけたい思うとります。』

ばあちゃんのアップでビデオは終わった。ひき結ばれた口もとが、りりしくかっこよかった。

（八東澄子『海で見つけたこと』より。一部改変）

（注）※1 恵理……「わたし」の学校の親友。

※2 磯笛……海女が水中での作業を終え、浮上したときにつく息。

字数制限のあるときには、句読点や記号は一字と数えなさい。

- (問一) — 線①「海のお宝」とは何を指していますか。適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) アジやヒラメ (イ) ワカメ (ウ) カモメ (エ) アワビやカキ
- (問二) — 線②「根こそぎとる」の意味として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 少しだけとる (イ) だいたいとる (ウ) すべてとる (エ) 半分くらいとる
- (問三) — 線③「わたしにはどうしても納得がいかない」とありますが、これは「わたし」がどのように考えているからですか。「だと考えているから。」に続くように、文中から三十五字以内で探し、書き抜きなさい。
- (問四) — 線④「キラキラ」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 戸をトントンたたたく。 (イ) カサカサ木の葉が鳴る。  
(ウ) 目がグルグル回る。 (エ) パチパチ拍手をする。
- (問五) — 線⑤「目をそらせた」とありますが、この時の「わたし」の気持ちを説明したものとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 海が好きだと言いきるばあちゃんを見て、「わたし」も一緒にもぐれるかと不安になって目をそむけてしまった。  
(イ) ずっと海にもぐり続けると元気に言うばあちゃんの年齢を考えると、心配になって視線をはずしてしまった。  
(ウ) 「わたし」と比べて自分が好きと自信を持って言うばあちゃんに気が引けて、まともに見ることができなかった。  
(エ) 本当はひとり海に入るのはさみしいのに、それを否定して強がるばあちゃんが気の毒で見えられなかった。
- (問六) — 線⑥「目を白黒させながら」とありますが、この時のよしひろの気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- (ア) 驚き (イ) 苦しみ (ウ) 喜び (エ) 怒り
- (問七) — 線⑦「思わず」を用いて、主語・述語のととのった短文を作りなさい。
- (問八) — 線⑧「もっとよく……よかった」とありますが、なぜですか。説明しなさい。
- (問九) — 線⑨「すごいこと」とはどのようなことですか。「ということ。」に続くように文中から三十字以内で探し、書き抜きなさい。

問題は、ここで終わりです。